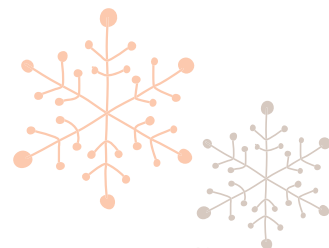


原因不明の場合の 治療の進め方



検査をしてもはっきりとした不妊の原因がわからない場合、加齢による卵子の老化も考えられます。そのような時にどんな心構えで治療を進めたらいいのか、宮崎レディースクリニックの宮崎和典先生にお話を伺いました。

原因不明の不妊は 加齢による影響が大きい

一般的に女性は35歳以上になると、妊娠率の低下とともに流産率も増加します。これは加齢による卵の染色体異常や受精後の胚の発育の悪化によると考えられています。ただ高齢の女性でも、年齢の若い女性のドナーから卵子提供を受けると妊娠率が上がることから、女性の妊孕力の低下は加齢による卵子の質の低下が大きな要因であることがわかっています。細胞内のミトコンドリアの機能低下と卵子の老化を関連づける研究結果が報告されていますが、詳細はまだ何もわからない状況といつてよいでしょう。現状では卵子の老化を予防したり、卵子を若返らせる革新的な方法は残念ながらありません。

一般不妊治療と体外受精を 組み合わせて考える

当院で体外受精による不妊治療を行っている患者さんの平均年齢は39・8歳。半数の患者さんが40歳以上という状況のなか、最近では治療する側としても難しい局面が多いです。

統計による女性の妊娠率は35歳からどんどん下がりはじめ、38歳では35歳の半分くらい。当院では45歳で妊娠、出産に至った方が5組ほどいらっしゃいますが、それはかなり特別なケースです。とても幸運な例であって、皆さんが同じような治療をして妊娠できるかというとそれはありません。

以前は40歳以上の患者さんには、最初から体外受精をすすめていましたが、最近では30代の方にも、希望者には最初から体外受精をすすめています。当院の場合、38歳以上で初診に来られた方には、「1年以内に一度は体外受精も考えておいてね」と伝えるようにしています。卵巣予備能には個人差があり、38

歳ですすでに手遅れになりかけている方もいらっしゃいます。実年齢だけでなく、AMH（抗ミュラー管ホルモン）の値などを参考にしながら、その方に合った治療のステップアップが必要です。生殖補助医療の技術が確立されている現代、体外受精や顕微授精はもう「最後の手段」ではありません。手遅れになって後悔する前にチャレンジしておいてほしい治療なのです。

それに、よく「一度、体外受精に進むと、もう前の治療には戻れない」と思い込んでいらっしゃる方がいらっしゃいますが、決してそんなことはありません。特に原因不明の不妊で結果が出ない場合、残された時間を無駄にすることなく、いろいろな治療法を試してみるべきだと感じています。卵管や精子に決定的な不妊因子があるような場合は別ですが、体外受精だけ、タイミング療法や人工授精などの一般不妊治療だけと、分けて考える必要はまったくありません。体外受精も一般不妊治療と組み合わせて並行してやってみればよいというのが私の考えです。

それぞれの段階の治療から わかることがある

不妊治療にはタイミング療法や人工授精などの一般不妊治療から、体外受精や顕微授精などの高度生殖補助医療まで、段階を追って治療を進めていくステップアップという考え方があります。「原因不明」と一言でいいますが、不妊症に関する一般的なスクリーニング検査だけではわからないことが、実際の治療過程で判明したり、推測できたりすることがたくさんあります。

まずタイミング療法では、卵胞チェックやホルモン値の検査によって、実際の排卵日がずれていないかどうかを確かめることができます。生理周期が長めの方のなかには、毎月きちんと月経があっても年に数回しか排卵されていないような方がいらっしゃるので注意が必要です。きちんと排卵日を確認し、黄体期に問題



治療やサプリなど 多方面からアプローチ

一つの治療法にこだわらず、時には一般不妊治療と体外受精を並行して行つと良い結果につながる可能性があります。卵子の質を上げる生活習慣やサプリメントも取り入れましょう。

がないかどうかを調べてもらいましょう。

性交後の女性の子宮頸管粘液を顕微鏡で調べるヒューナー検査では、卵子と精子がうまく出会うことができているか、つまり頸管因子がないか、ある程度のことかわかります。

また、不妊治療にはご主人の協力が不可欠です。当院では開業当時から男性不妊外来を設けていますが、最近では男性が自分から予約をして受診されるケースも増えました。ご主人の協力を得られないと、そのために治療を先に進めることができず、女性が高齢化してさらに状況を悪くすることも懸念されます。たとえ精

液検査をされていても、一度きりの検査結果では男性側の不妊の原因が見つけれられないことも。人工受精を行えば、卵管のピックアップ障害や本当に男性因子がないかどうかを推測することができます。

もし費用の問題があるとしたら、排卵誘発法の見直しと人工受精という治療も良いと思います。ただ、人工受精を5、6回やるにしても最低5、6カ月ばかりかかってしまいますので、それをやらないと「次へステップアップできない」と考えるのではなく、ある程度のところまで体外受精もやってみるなど、柔軟に考えていくといいでしょう。特に40代の治療では、限られた時間を有効に使うこともポイントです。

卵子の質の改善には、レスベラトロール、エルカルニチン、DHEA、メラトニンなど、アンチエイジング系のサプリメントや漢方薬も試してみる価値があるでしょう。今の医学では卵子の質を劇的に改善することはできませんが、食事や運動習慣などと組み合わせることで、良い結果につながるケースが多々あります。一つの治療法にこだわらず、これらの力も借りながら、柔軟な治療計画を立てることが大切かと思えます。

clinic data

宮崎レディースクリニック

☎ 06-6371-0363

<http://www.miyazaki-lc.org/>



●住所

大阪府大阪市北区豊崎 3-17-6

●アクセス

地下鉄御堂筋線

中津駅から徒歩 1 分

宮崎 和典 先生

大阪医科大学医学部卒業。学生時代の新生児医療への興味がきっかけとなり、体外受精や不妊治療の世界を志す。同大学産科婦人科講師を経て、1992年に不妊症、不育症治療専門クリニック、宮崎レディースクリニック開業。開業当初より泌尿器科の専門医による男性不妊外来を開設する。A型・しし座。スイス観光の際に軽いレッキングを体験された先生。下りで膝が痛くなり、ほとんど動けなくなってしまったそう。体力の低下を痛感し、最低週2回のトレーニングを目標に、しばらくお休みしていたジム通いを再開!